

Consultants

DE&Iのさらなる推進により 選ばれる建設コンサルタントに

野本 昌弘

一般社団法人建設コンサルタンツ協会 常任理事



少子化・人口減少による担い手不足

少子高齢化問題がクローズアップされて久しいですが、この6月にはさらにショッキングなニュースが報じられました。厚生労働省が発表した2024年の出生数が約68万人となり初めて70万人を割り込みました。第一次ベビーブームのピーク時から約200万人もの減少です。一方で高齢化により亡くなられる方は増え続け、このペースが続くとまもなく毎年100万人以上が減少するという深刻な事態となります。

協会では担い手確保を重要なテーマとして継続的に取り組んでいます。これほどの速さで人口減少が進む日本で担い手を維持すること自体が困難な時代に突入しています。またせっかく確保した貴重な人材が他業界へ流出するなど、人材の流動化が激しくなることも懸念されます。

まずは女性活躍が当たり前に

協会調査では、女性社員の比率は20%強であり女性技術者に限定すると約17%と依然として少ない状況です。幸い近年の大学土木系には以前に比べ多くの女性が在籍しています。彼女たちを建設コンサルタント業界に導き、活躍してもらうことが、喫緊の課題解決につながります。

そのためにも、各会員企業で取り組んでいる多様な働き方をさらに推進し、働きやすい環境を整備することが重要で、それが充実した働き方や働きがいに繋がり、結果として担い手の増加にもつながります。

今年度は「建設コンサルタントビジョン2025」が策定された初年度であり、その中でも人口問題やDE&I推進が取り上げられています。また、協会活動の改革として女性委員長の増加目標がしっかりと記載されました。この目標を達成することが、女性活躍を推進するうえで不可欠であり、協会のさらなる発展にも繋がるものと思います。

米国の科学者が述べた「人類史上におけるイノベーションは、そのアイデアのネットワークに女性が含まれていれば、もっと劇的に早く起こっていたかもしれない」という言葉はまさに的を射ており、社会情勢が大きく変化し、か

つ人口減少が加速する中で女性活躍は日本社会全体の大きな課題であり、建設コンサルタンツ協会でも最優先事項として取り組むべき課題です。

本格的なダイバーシティ(DE&I)推進へ

女性比率の増加、女性活躍がダイバーシティの第一歩ですが、本格的なダイバーシティ推進には、今後の人口減少を踏まえると、外国人の採用・登用も不可欠です。近年、留学生の採用も増加傾向であり、外国人社員も徐々に増えているものと考えられます。協会や各企業で取り組んでいるDX化やAI活用がさらに進むことで、言葉の壁も低くなり、国内事業においても外国人材の活躍の場は広がるものと思います。そして女性、外国人社員が増えることで建設コンサルタントにとって最も重要な人的資本がより豊かになるものと思います。

さらには障がい者雇用など、DE&I推進に取り組む協会としては、これらの取り組みにより担い手を確保し続け、多様な人材が建設コンサルタントの様々な事業や領域で活躍できる環境を整備することが重要です。

多様性が進むことで、様々な変化が見られ、多様な視点やイノベーションが生まれ、生産性向上や効率化が進み、それが働きやすい環境へと繋がるなど好循環を生み出すこととなります。

選ばれる建設コンサルタントに

今月号のテーマは「インフラとデザイン」ですが、人口減少が進めば担い手すなわち社会インフラのデザイナー自体が大幅に減少します。国土強靱化や災害対応、そしてインフラ老朽化対策は協会の最大の使命であり、そのデザイナーを協会として確実に確保・育成し、安全安心な地域、国土づくりを担っていく必要があります。

そのためにも、建設コンサルタントの魅力を高め、働きやすく・働きがいのある協会となり、若手や女性、外国人に選ばれる職業になることが重要であり、そういう業界となることを願っています。